

平成31年度 全国学力・学習状況調査（平成31年4月18日実施）

# 三田市の結果概要

「自分が好き、人が好き、このまちが好き、  
夢にむかって歩むさんだっ子」

をめざして

三田市教育委員会

# 本市の結果をお知らせします！

平成31年度全国学力・学習状況調査の「国語、算数・数学、英語（中学）」と「質問紙調査」についての分析結果をお知らせします。

平成31年4月18日に文部科学省が、「全国学力・学習状況調査」を行いました。

今年で12回目を迎えるこの調査は、文部科学省が全国の児童生徒の学力や学習状況を調べ、義務教育の成果と課題を確かめ、改善を行うために実施するものです。

三田市では、これまでの調査結果も活用し、分析を進めました。

## 1 本調査のとらえ方

三田市教育委員会では、この調査の結果を受け、三田市学力向上推進委員会を開催し、三田市の結果分析を進めてきました。三田市の平均正答率は、過去11回と同様に、小学校・中学校共に全国・県平均を上回り“良好”でした。

また、「教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）」と「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」との関連についても分析した結果、

- ・「朝食を毎日食べている。(P9)」
- ・「読書が好き。(P11)」
- ・「国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいる。(P14)」
- ・「学校のきまり・規則を守っています。(P18)」

などと回答している子どもは、平均正答率が高い傾向が見られました。

さらに、各学校においても結果を分析し、学力向上に向けた様々な取組の成果と課題を明らかにし、今後の改善につなぎます。

次代を担う子どもたちが、基本的な生活習慣や学習習慣を身に付け、健やかに育ち、心豊かに生きていくためには、学校と家庭、地域の協力や連携がとても大切です。

三田市教育委員会は、調査結果から見えてきた成果と課題を踏まえ、子どもたちの『生きる力』を育成していくための取組を進めてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

## 2 調査の概要及び公表方法について

- (1) 調査の実施日 平成31年4月18日(木)
- (2) 調査の対象 小学校6年生(市内20校1037名)  
中学校3年生(市内8校906名)

### (3) 調査内容

#### ①教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)

- ・A問題とB問題という区分が見直され、知識・活用を一体的に問う問題  
※英語においては、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」に関する問題が出題され、「話すこと」に関する問題の解答は、口述式による

#### ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

### (4) 公表方法について

本結果概要では、全国や兵庫県の状況を踏まえた上で、教科と領域ごとの結果と、本市の子どもたちの優れている点やつまずきが見られる点について明らかにすると共に、学びのポイントについて総合的に分析した結果の一部を記載しています。

同様に、子どもたちの学習や生活に対する意識や実態等について、「教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)」と「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」の二つの結果をもとにした、「児童生徒質問紙調査の結果と教科調査とのクロス集計分析(P9～P18)」を記載しています。

また、国・県においては、細かい桁によるわずかな差は、学力面での実質的な違いを示すものではないと考えられるとして、各教科の平均正答率は整数値で公表しています。

三田市もこれに準じ、各教科及び領域の平均正答率は、小数点以下を四捨五入した整数値で公表します。ただし、質問紙の数値については、従来通り、小数点以下第1位の数値を公表します。

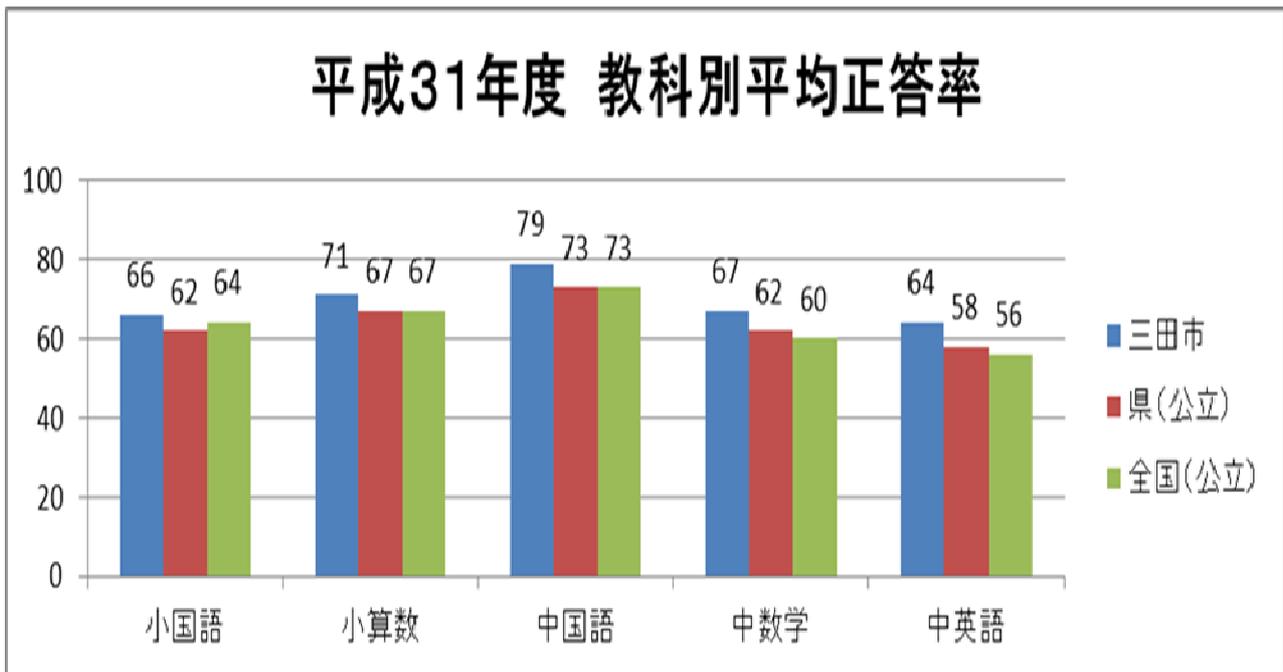
### 3 子どもたちの学力の定着状況について

国語、算数・数学、英語全体の調査結果

全国・兵庫県の状況を踏まえ三田市の現状を分析したところ、結果は

**良好**でした。

平均正答率 (%)



#### 本市の傾向

※国語、算数・数学、英語の全ての問題において、全国・兵庫県の平均正答率を上回っています。

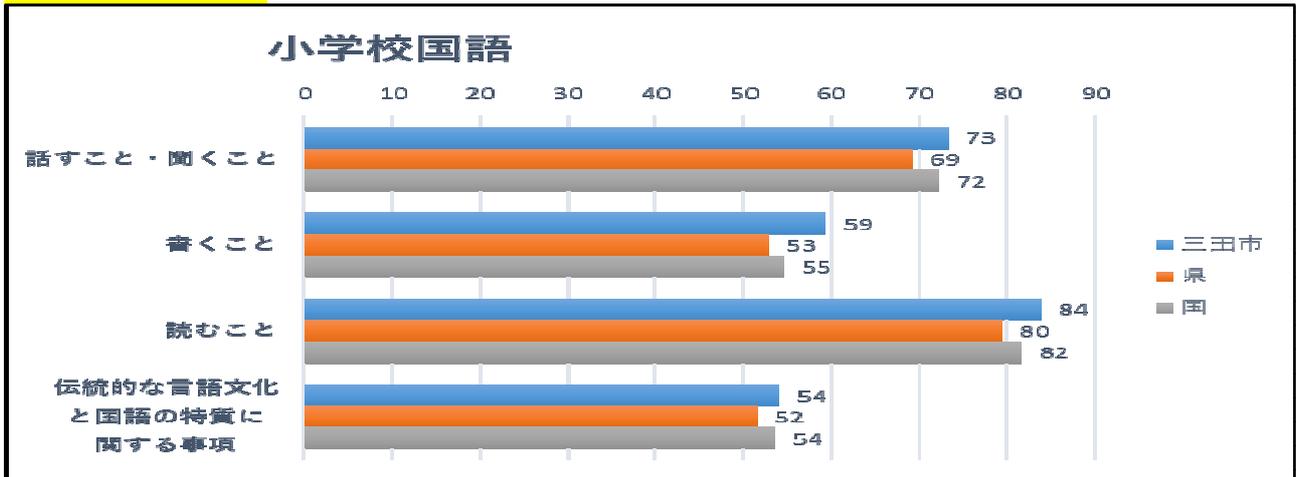
※今年度は、下記の3項目で全国平均を6ポイント以上、上回っていました。

中学校国語(全国平均より+6ポイント)

中学校数学(全国平均より+7ポイント)

中学校英語(全国平均より+8ポイント)

## ①小学校：国語



### 本市の傾向と学びのポイント

※全領域において全国・兵庫県の平均を上回っています

#### 【よくできていること】

- ・相手や目的に応じ、文章の内容を押さえ、自分の考えを明確にして読むこと
- ・図表やグラフなどを用いた目的を捉えること

#### 【課題】

- ① 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと
- ② 文と文の意味のつながりを考えたり、接続語を使ったりして、一文の長さを意識して、分かりやすく伝わるように文章を分けて書くこと

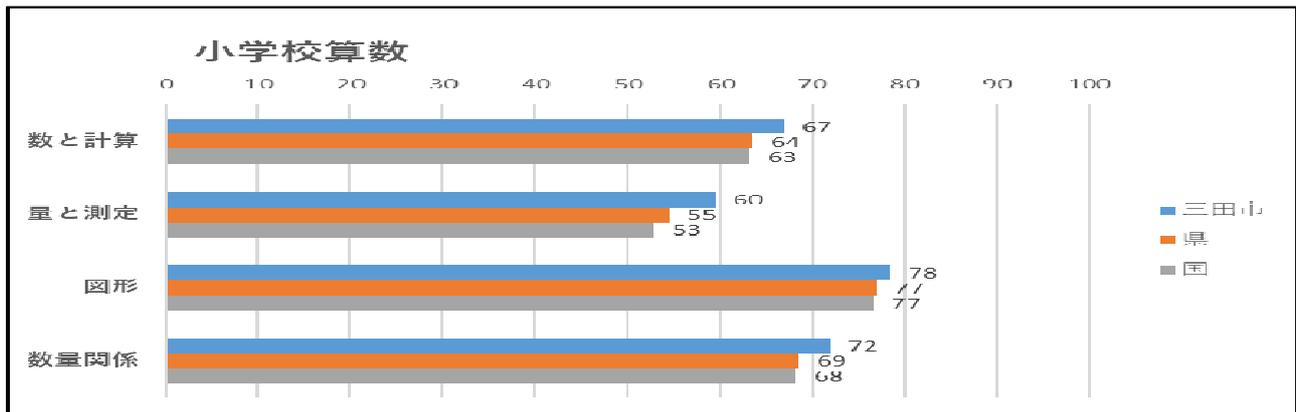
### 学びのポイント

① 目的に合った情報を取捨選択して書く習慣を身につけよう

② 課題解決に向けて、どのような情報が必要なのかを確かめ、複数の情報を組み合わせて考えを書く力を身につけよう

- ・複数の情報を集めて取捨選択するときには、「ふせんに情報を書き出して、優先順位を考える」、「表などを使って内容を分類したり整理したりする」といった手立てを使ってみましょう。
- ・詳しく書くために、それぞれの情報からキーワードを見つけて囲んだり、線でつないだりしながら、複数の根拠を接続語などでつないで文章を考えましょう。

## ②小学校：算数



### 本市の傾向と学びのポイント

※全領域において全国・兵庫県の平均を上回っています

#### 【よくできていること】

- ・示された減法について成り立つ性質を理解し、計算に適用すること
- ・目的に適した情報を選び出し、伴って変わる二つの数量を見出すこと

#### 【課題】

- ① 示された除法の式の意味を理解すること
- ② 示された図形の求め方の意味を解釈し、その求め方の説明を記述すること

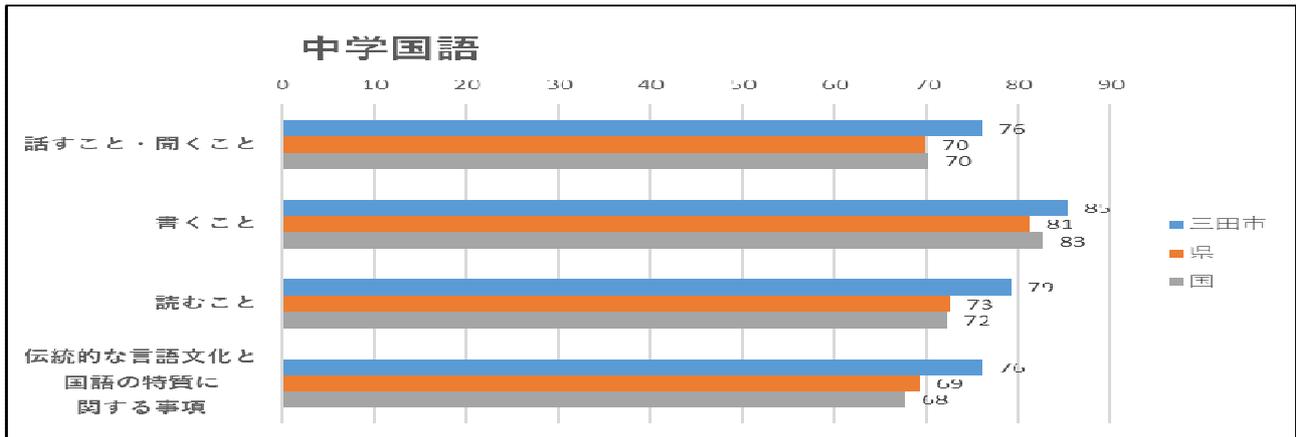
### 学 び の ポ イ ン ト

① 式が表す意味を、図を使って説明しよう

② 図形の面積を、今までに習った面積の公式を活用して求め、その求め方を式や図を使って説明しよう

- ・式に合う問題をつくったり、式の意味を図に表したりして、計算の意味理解を深めましょう。
- ・図(線分図や関係図など)を基に式に表したり、図とつなげて式の意味を考えたりすることを意識しましょう。

### ③中学校：国語



#### 本市の傾向と学びのポイント

※全領域において全国・兵庫県の平均を上回っています

#### 【よくできていること】

- ・文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えを持つ
- ・書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討する

#### 【課題】

- ①文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える
- ②話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつ

#### 学びのポイント

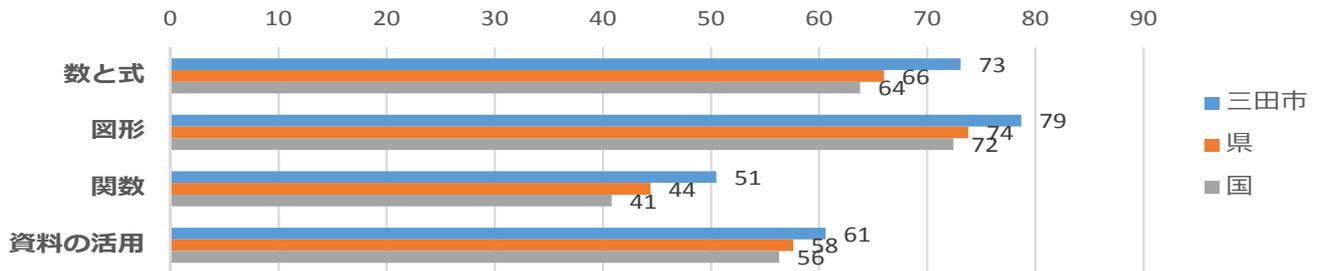
①新聞や論説文の情報を簡単にまとめてみよう

②ニュースや新聞の記事に対して、自分の考えをまとめてみよう

- ・新聞を読んだり、テレビのニュースを聞いたりすることは、学力の向上につながります。積極的に新聞を読むなどして、情報を集めてみましょう。
- ・集まった情報を整理し、その情報をもとに自分の考えをまとめてみましょう。
- ・友達や家族、先生など周りの人と、ニュースについて話し合ってみることも取り組んでみましょう。

④中学校：数学

中学数学



本市の傾向と学びのポイント

※全領域において全国・兵庫県の平均を上回っています



【よくできていること】

- ・数式で得られた数学的な結果を事象に即して解釈すること
- ・平行移動についての理解や基礎的な確率を求めること

【課題】

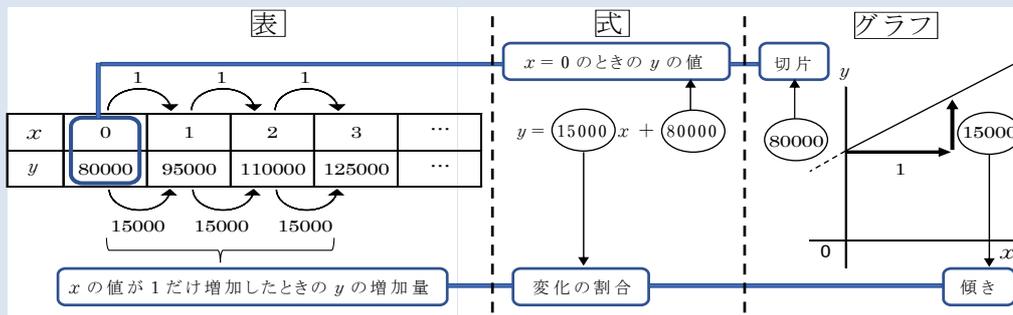
- ①関数に関わる事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること
- ②資料の傾向を的確に捉え、数学的表現を用いて、判断の理由を説明すること

学 び の ポ イ ン ト

①関数における表・グラフ・式の関連を理解し、それらを使った問題解決の方法を説明できるようにしよう

②資料の傾向を捉え、判断の理由について、代表値などの数学的用語を使って、根拠をもって説明できるようにしよう

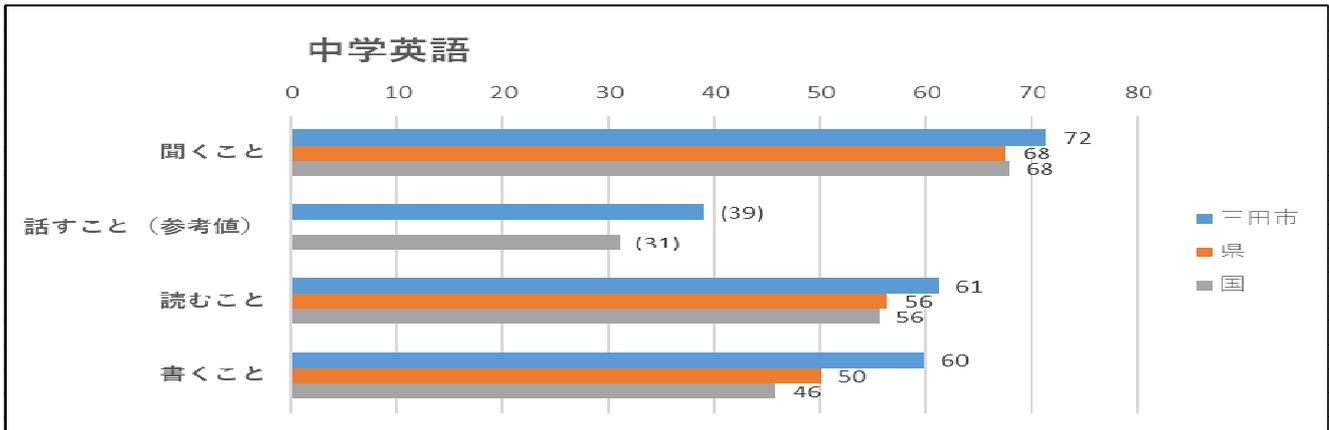
①表・グラフ・式の関連について考えてみましょう



②資料を表やグラフに表したり、代表値を求めたりして、資料の傾向をとらえましょう

- ・代表値を求める
  - 平均値・・・個々の資料の値の合計を資料の総数でわった値
  - 中央値・・・調べようとする資料の値を大きさの順に並べたときの中央の値
  - 最頻値・・・資料の中で、もっとも多くでてくる値
  - 度数分布表では、度数のもっとも多い階級の階級値
- ・ヒストグラムに表す

## ⑤中学校：英語



### 本市の傾向と学びのポイント

※全領域において全国・兵庫県の平均を上回っています

#### 【よくできていること】

- ・基本的な文法事項を理解し、それを活用した読解力がついている
- ・英語を聞いて指示に従うなど、日常生活に必要な英語表現を理解し、活用できる

#### 【課題】

- ① 全ての領域において、第三者のことを伝える表現力を身に付けること
- ② 根拠を明確にし、論理立てて伝えることができる表現力を養うこと
- ③ 接続詞を効果的に活用し、まとまりのある英文で表現すること

### 学びのポイント

① まとまりのある英文を読んだり、聞いたりして、その内容を短い英文で伝えてみよう

② 様々なテーマに沿って、短い英文を書いてみよう

- ・まとまりのある英文を聞き、聞き取った情報をメモしたり、英語でその内容を確認したり、聞き返したりしよう。
- ・社会的な事象や時事問題を含んだ英語の文章を読んで、その内容を英語で簡単にまとめよう。
- ・英語で自分の考えや気持ちを伝えるときに、その理由などを付け加えて表現しよう。

## 4 三田の子どもたちの学習や生活に対する意識・実態について

～児童生徒質問紙調査の結果と教科調査とのクロス集計分析より～



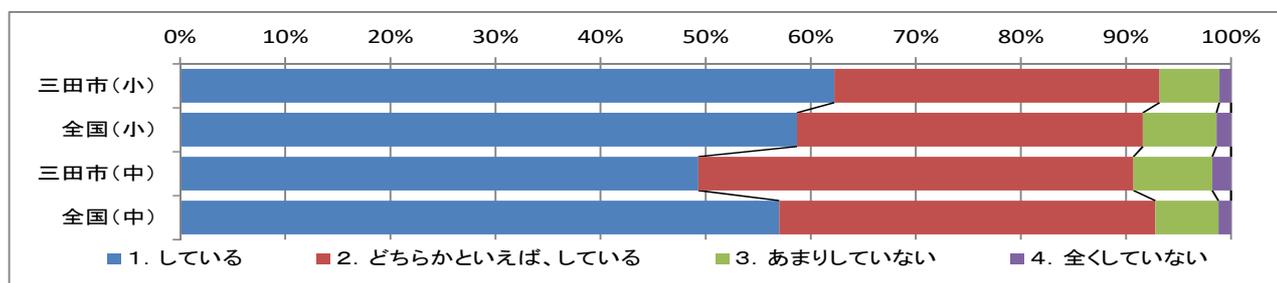
### 『生活・学習習慣』『学ぶ意欲』『自尊感情』の視点から

児童生徒質問紙調査については、全国値との比較、小中学校の値の比較から、三田市の特徴や課題を分析します。視点は、これまでと同様に『生活・学習習慣』『学ぶ意欲』『自尊感情』です。

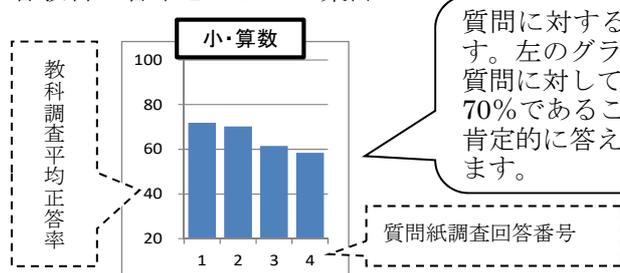
また、平均正答率上位層と下位層の回答内訳から、生活・学習習慣改善へのアプローチを分析します。

## 1 「生活・学習習慣」と学力

### Q.毎日、同じぐらいの時刻に起きていますか。



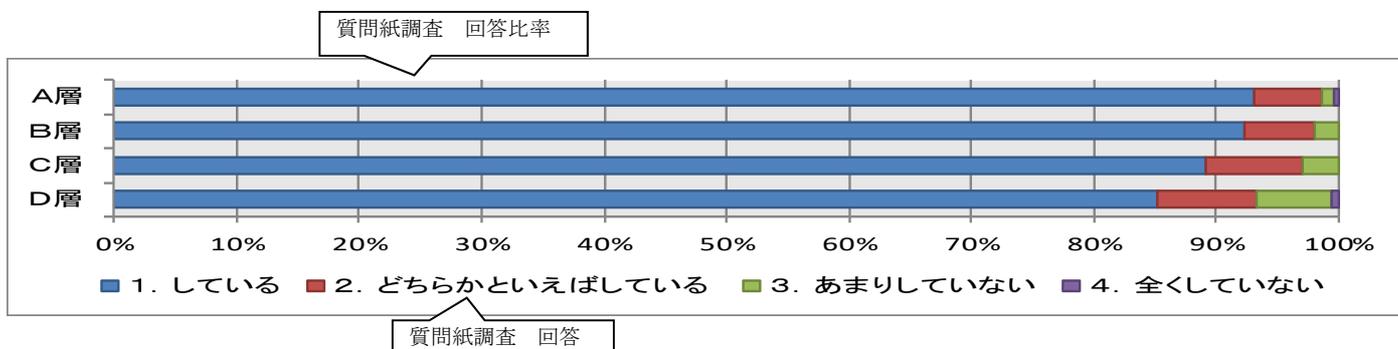
<各教科正答率とのクロス集計>



質問に対する回答者の教科の平均正答率をグラフにしたものです。左のグラフでは、毎日、同じぐらいの時刻に起きているかの質問に対して『1. している』と回答した児童の平均正答率が約70%であることを表しています。このグラフでは、質問に対して肯定的に答えた児童ほど、正答率が高い傾向があることが分かります。

### Q.朝食を毎日食べていますか。

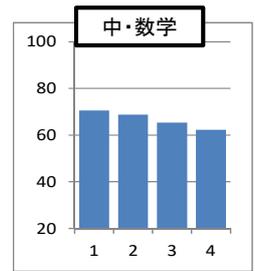
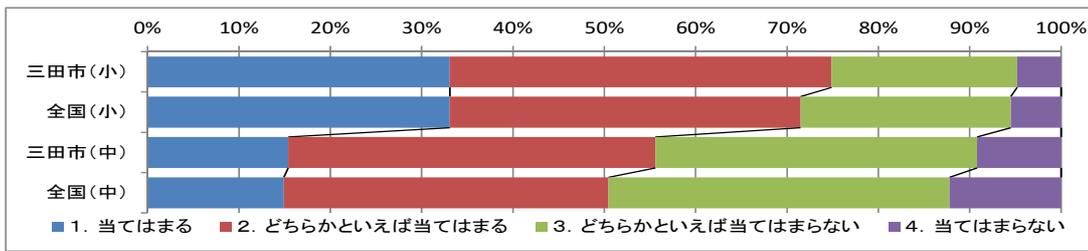
平均正答率の上位25% (A層)～下位25% (D層)での回答内訳の比率 【小学校国語】



各層は三田市の児童生徒を正答数の大きい順に整列し、人数比率により25%刻みで4つの層分けを行っています。上位から1番目をA層、2番目をB層、3番目をC層、4番目をD層と呼称します。正答数が同じ場合は、上位の層に含むものとしています。

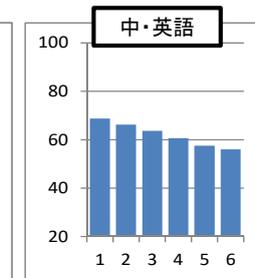
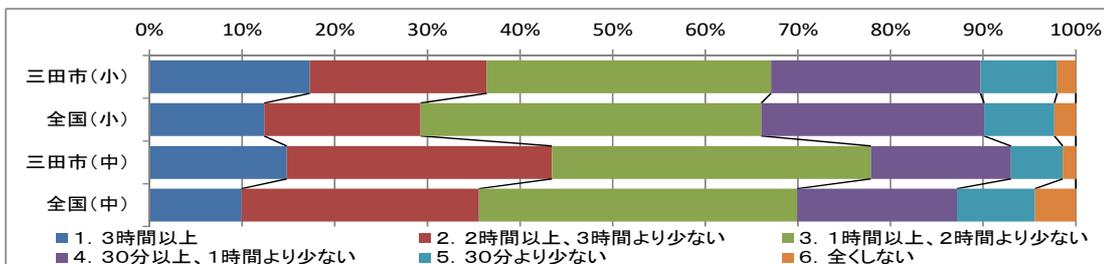
- 今回の調査からも、生活習慣を整えることが学力向上の要因の一つとなることが表れています。
- 基本的な生活習慣の確立を図るためには、児童生徒が自己の生活習慣を振り返ったり、家庭と学校が連携して児童生徒の生活習慣作りをサポートしたりする取組が大切です。

**Q.家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。**



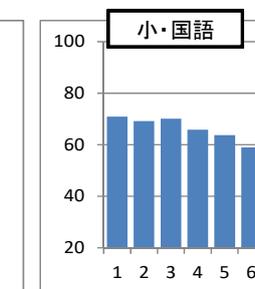
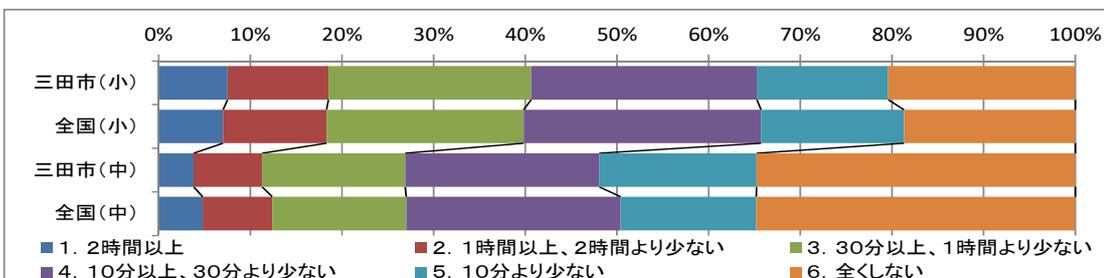
- 「計画を立てて勉強する」と答えた児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。児童生徒が自己の目標に向かって、計画的に宿題に取り組んだり、その日の学習内容について復習したりすることは学力の向上につながると考えられます。
- 小学校5年生全員に配布している『ひとり学びへの手引き』を活用するなど、学校や家庭において、児童生徒の家庭学習を促す働きかけや、家庭学習に対して、積極的に認め、励ますことが大切です。自分にあった勉強方法や学習習慣を身につけていくことが望まれます。

**Q.学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わってる時間も含む)**

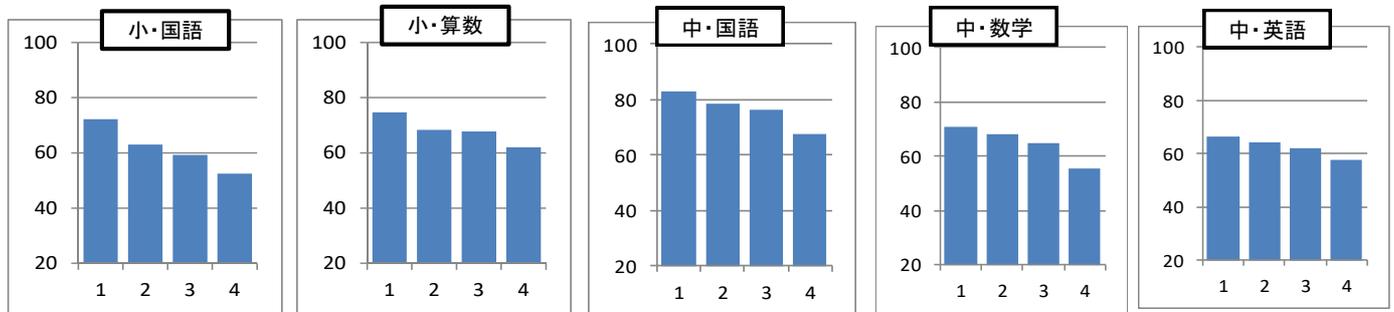
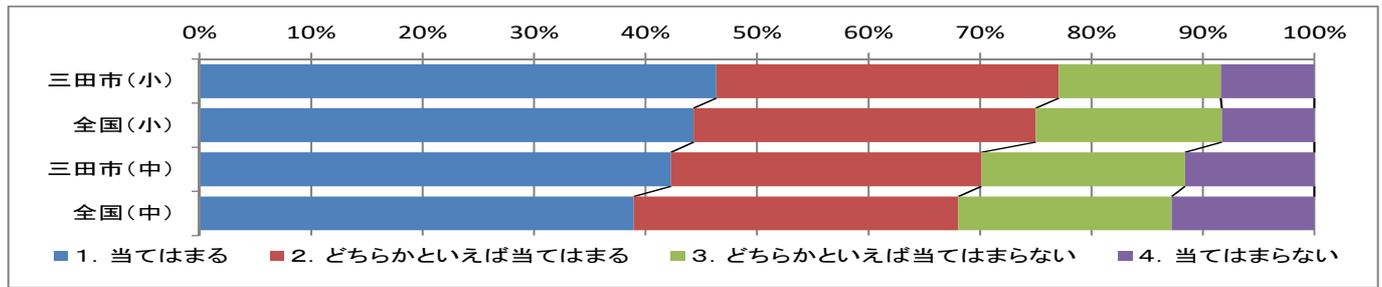


- 昨年度に続き、児童生徒の授業以外の勉強の時間は、全国平均より長い結果となりました。2時間以上勉強をしている割合は、小学校、中学校ともに全国平均と比べ7ポイント上回っています。小学校段階から勉強時間が確保できており、望ましい生活習慣が中学生になっても継続されています。
- 今後も、やるべきことに優先順位をつけることや、勉強時間を十分に確保することなど、家庭での学習が充実するよう、学校や家庭において、継続的に支援していくことが大切です。

**Q.学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)**

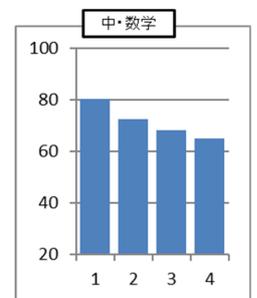
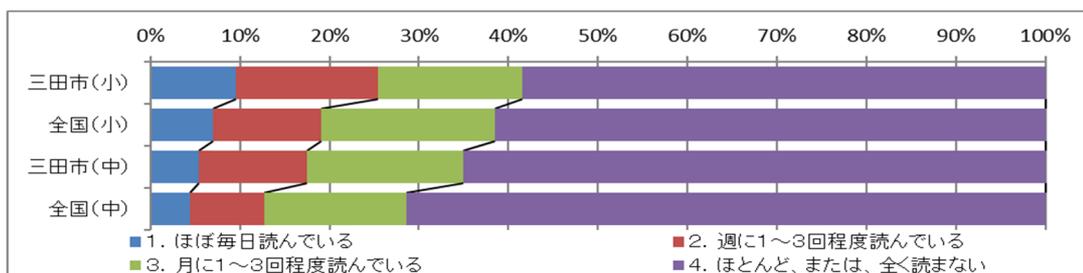


## Q. 読書は好きですか。



- 昨年度、「読書を30分以上する」と回答した割合は小学校は38.6%、中学校は26.2%でした。今年度、「読書を30分以上する」と回答した割合は小学校は40.6%、中学校は26.9%となっており、読書習慣を身につけている児童生徒の割合は増加傾向にあります。
- 学校司書の配置や図書館整備の充実、さんだっ子読書通帳の活用や読書タイムの設定等、読書習慣確立に向けての取り組み等が成果を上げていると考えられます。
- 「読書は好きですか」に肯定的に回答した児童生徒は、国語、算数(数学)、英語のすべてにおいて、学力が高い傾向があります。本に慣れ親しみ、本を読むことが好きになるために、読み聞かせや本に興味を持てるような取り組みを家庭や学校で実践していくことが大切です。

## Q. 新聞を読んでいますか。



- 新聞を週に1回以上読むと回答した割合は、小学校25.4%、中学校17.5%で、全国平均より小学校で6.4ポイント、中学校で4.8ポイント高くなっています。また、新聞をよく読む児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向があります。
- 家庭において、新聞記事の話題について話し合ったり、家庭学習で新聞記事について考えたことをノートにまとめたりするなど、社会の出来事に関心を持ち、新聞を手にする習慣を育てていくことが大切です。

## 2 「学ぶ意欲」と学力

新学習指導要領では、総則において『主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善』について規定されています。

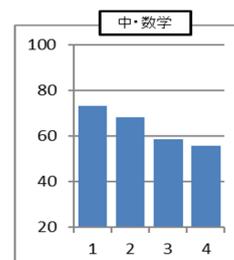
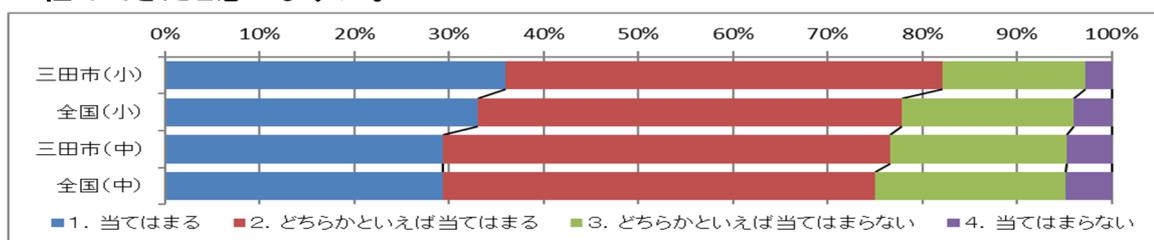
### 『主体的・対話的で深い学びの実現（「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）』について

- 【主体的な学び】… 学ぶことに興味や関心を持つ → 見通しを持って、粘り強く取り組む → 自らの学習をまとめ振り返り、次の学習につなげる。
- 【対話的な学び】… 子ども同士の対話、子どもと教員、子どもと地域の人、本を通して本の作者などの対話を図ることによって、自己の考えを広げ深める。
- 【深い学び】… 学びの過程（習得→活用→探究）の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう。

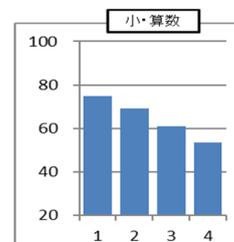
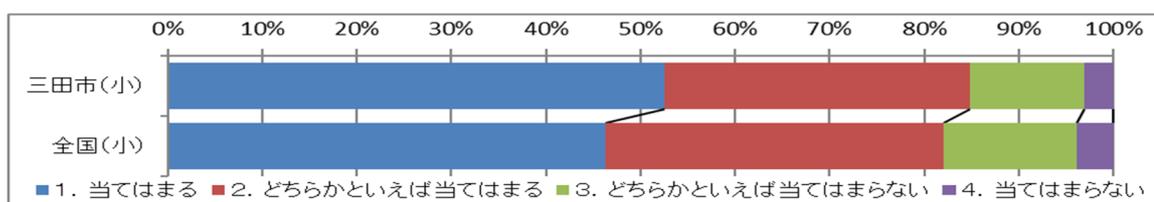
ここでは、「学ぶ意欲と学力」について、『主体的・対話的で深い学び』の視点から、児童生徒質問紙調査について分析します。

### 【主体的な学び】の視点から

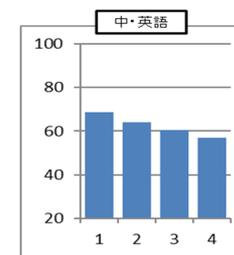
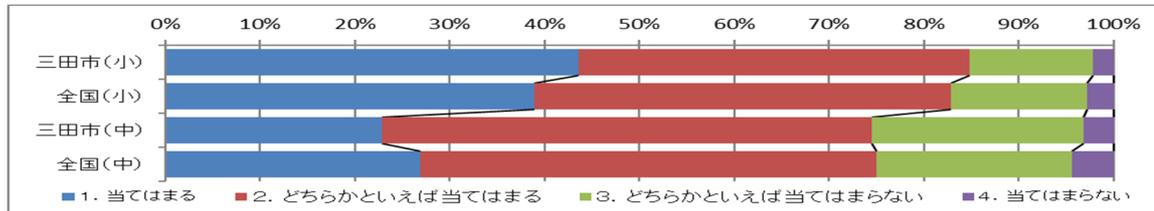
Q.5年生までに（1, 2年生のときに）受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んできたと思いますか。



Q. 算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか。



Q. 授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか。

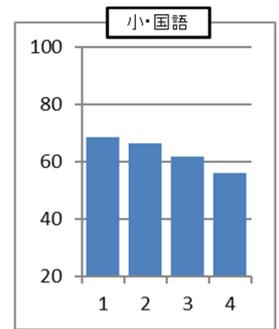
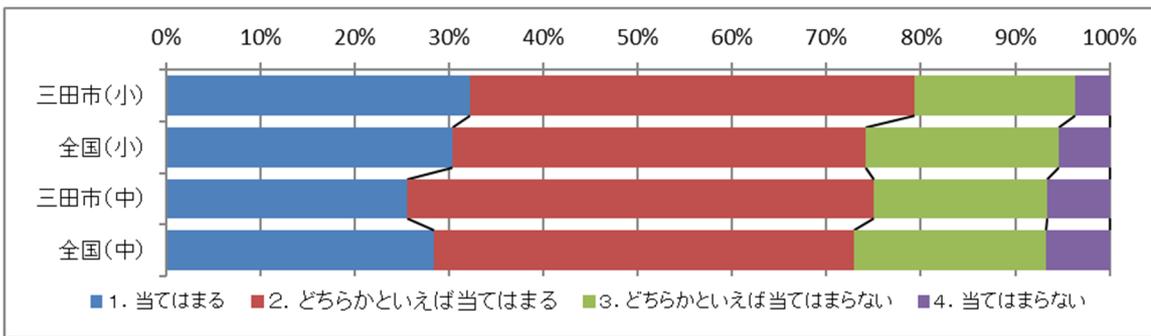


### 粘り強く学習に取り組んだり、学んだことを他の学習に生かしたりすることを意識しよう

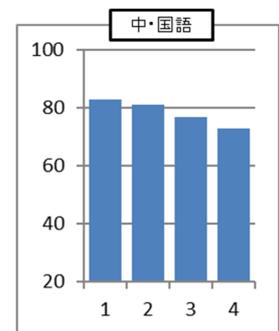
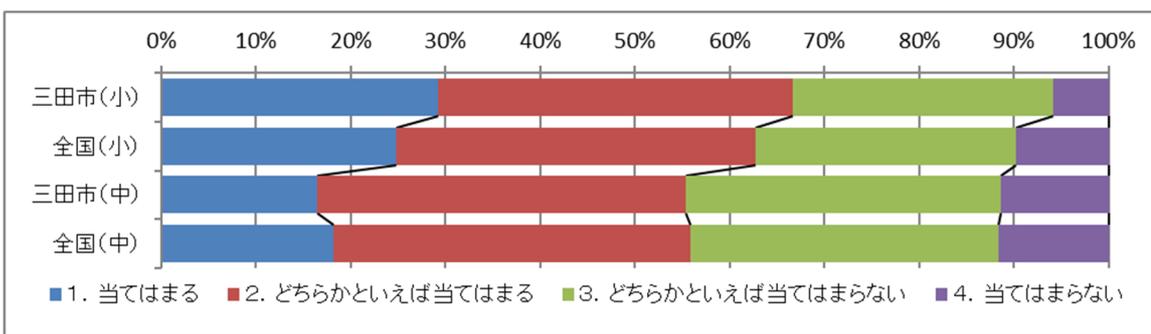
- 「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」では、小中学校ともに全国平均より高く、小学校では8割を超えています。また、「諦めずに学習に取り組む」ことについても、小学校では8割を超えています。「学んだことを、ほかの学習に生かす」では、小中学校ともに全国平均と同程度となっています。
- 主体的に学ぶ力が高い児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあることから、「粘り強く学習に取り組む力」や「自らの学びを調整し、次の学びに生かしていく力」を育む学習を充実させていくことが大切です。

【対話的な学び】の視点から

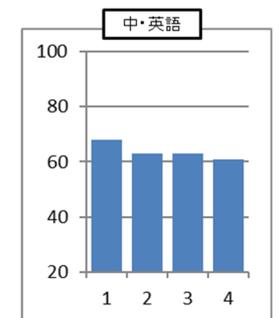
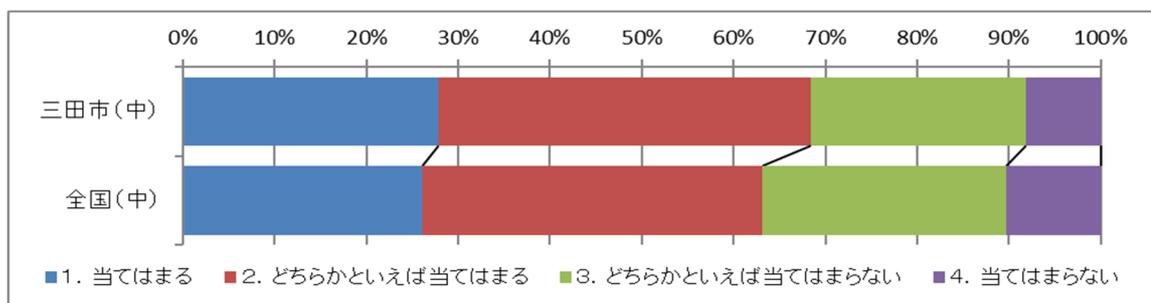
Q. 学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思いますか。



Q. 5年生までに(1, 2年生のときに)受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。



Q. 1, 2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか。

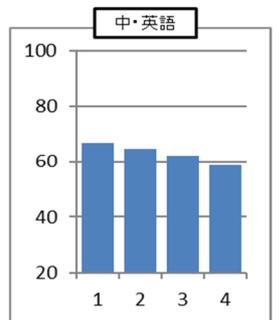
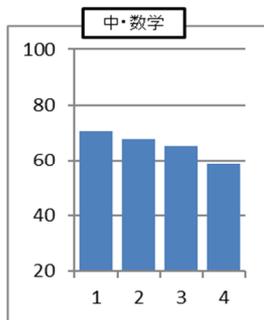
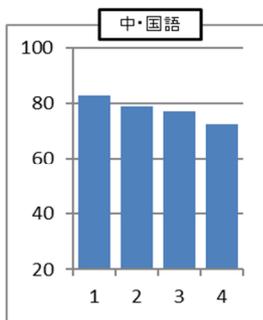
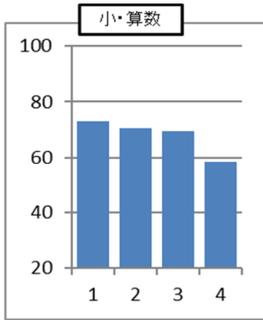
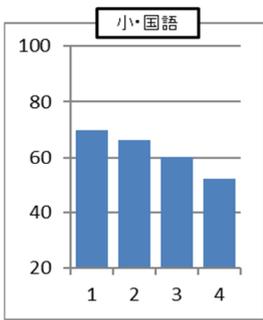
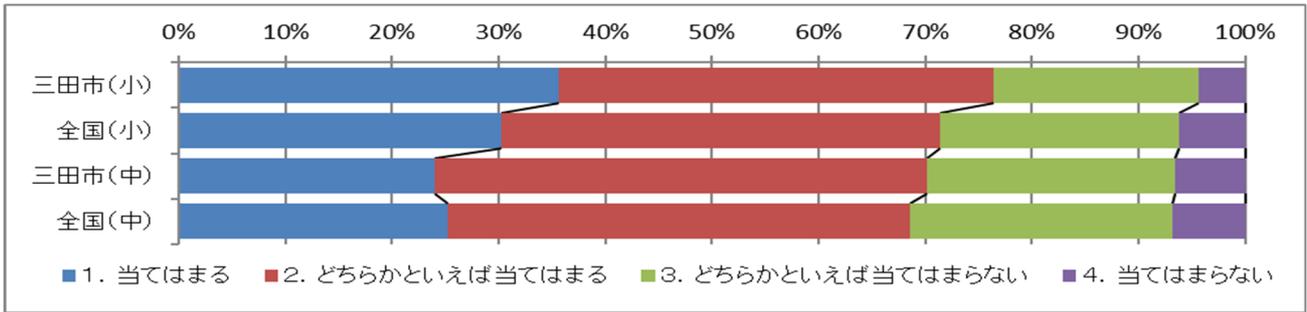


対話を通して論理的に考えたり批判的に考えたりする力を身につけよう

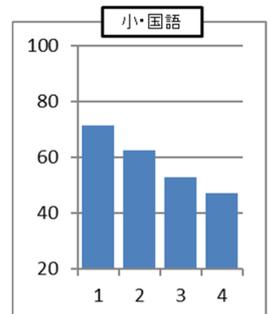
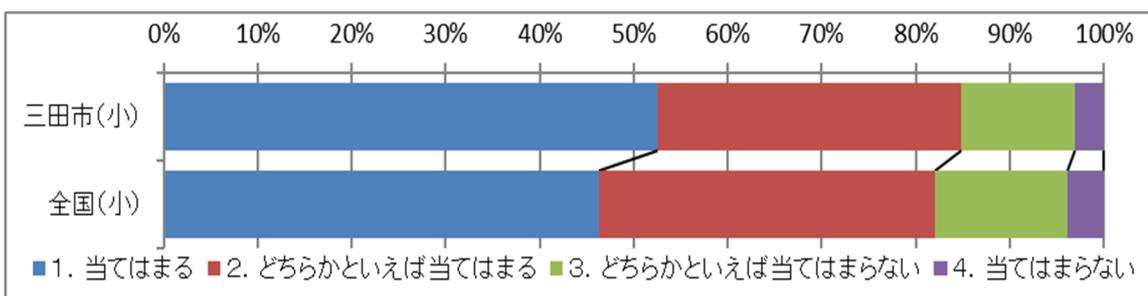
○「話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりできる」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国平均と同程度で、小学校では全国平均より5ポイント高く、約8割です。また、「資料や文章、話の組立てを工夫して発表していた」と肯定的に回答した割合は、小学校、中学校ともに全国平均と同程度となっています。中学校英語「自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動がされていた」と肯定的に回答した生徒の割合は、全国平均よりも高く約7割です。対話を通し学習を深めようとする児童生徒ほど平均正答率が高い傾向にあります。

○課題解決に向け、他者と協働的に学習に取り組む授業を充実させ、論理的に考えたり批判的に考えたりしたことを表現につなげていくことが大切です。

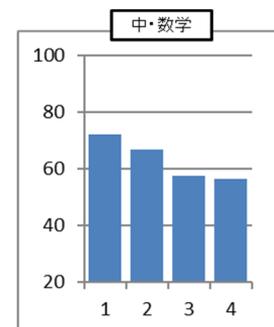
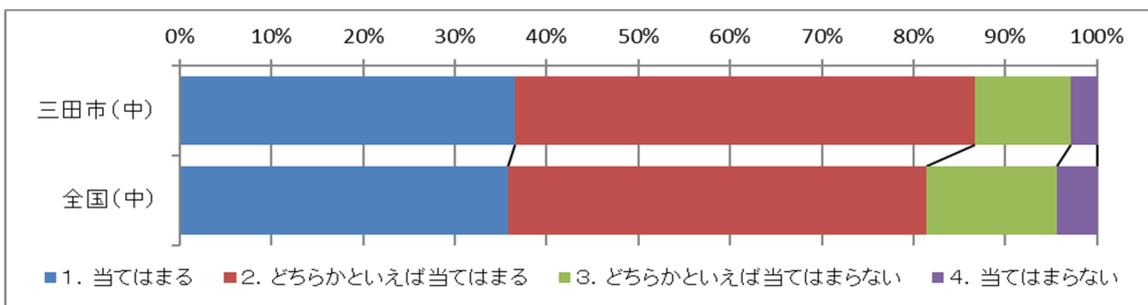
Q. 国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいますか。



Q. 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか。



Q. 1, 2年生のときに受けた授業では、英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか。



### 目的に応じて情報を選択したり関連付けたりして、理由を明確にして自己の考えを表現しよう

- 「文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいる」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国平均と同程度で、小学校では全国平均より約5ポイント高くなっています。小学校では、「公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」と肯定的に回答した児童の割合は、全国平均と同程度で8割を超えています。中学校では、「英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていた」と肯定的に回答した生徒の割合は、全国平均と同程度で8割を超えています。
- これらの項目に肯定的に回答した児童生徒ほど平均正答率が高いことから、情報の全体像を捉えたり、目的に応じ必要な情報を選択し関連付けたりしながら、自己の考えを適切に表現できる力を育成することが、学力向上において大切であることが伺えます。

### 『主体的・対話的で深い学び』の分析を通して

自己の学びを丁寧に振り返り、学んだことをつないだり生かしたりするなど、  
「どのように学んだのか」を意識しよう

- 『主体的・対話的で深い学び』の視点からの分析を通して、三田市では「課題解決に必要な情報に着目し、それらを関連付けて自己の考えを形成すること」「自己の主張を支える理由付けを大切にしながら学習すること」「課題解決に向けて他者と協働し、粘り強く学習に取り組むこと」ができる児童生徒が多く、このような児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向にあります。
- こうした児童生徒の学びに向かう姿は、新学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実現に向け、「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」を重視した授業改善に取り組んできたことによるものです。
- 「自分の学びを振り返り、次に生かす力を育む授業」「友だちとの対話を通し学びを深める授業」「教科特有の『見方・考え方』を働かせ、考える力を育む授業」など、児童生徒の課題解決に向けた探究の過程を大切にした授業づくりを一層充実させることが大切です。



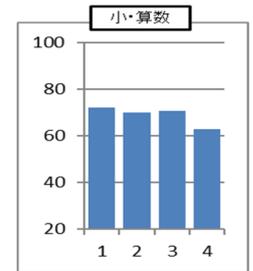
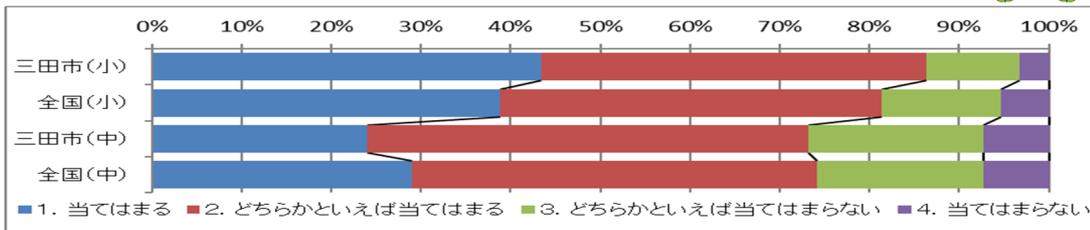
### 3 「自尊感情」と学力

グローバル化が進み、変化の激しい時代を生きる子どもたちが、それぞれの個性や力に応じてこれからの社会を生きていくためには、自らの生き方を考える中で夢や目標を持ち、具体的な計画を立て、それに向かって進んでいく力（キャリアプランニング能力）をはじめ、コミュニケーション能力や課題解決能力等、多様な力を身に付けていくことが大切です。子どもたちが社会とのかかわりの中でその力を育むためには、学校・家庭・地域の連携が必要です。今、学んでいること、頑張っていることが未来の「私」につながっている、そんな気づきを通して、学習への向き合い方や人間関係作り、子どもたちの学びを支える人や社会とのつながりを考えます。ここでは自尊感情・キャリア教育、人とのつながり、学校生活の視点から、児童生徒質問紙調査について分析します。

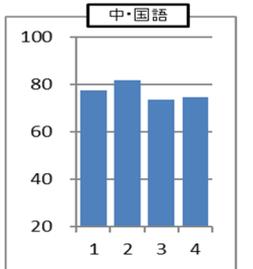
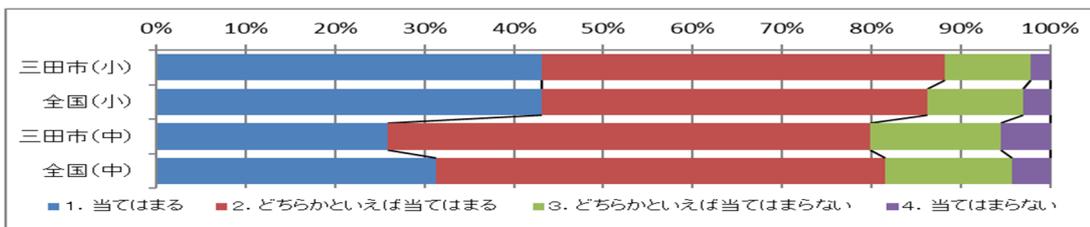
#### 自尊感情・キャリア教育の視点から



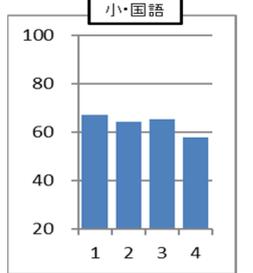
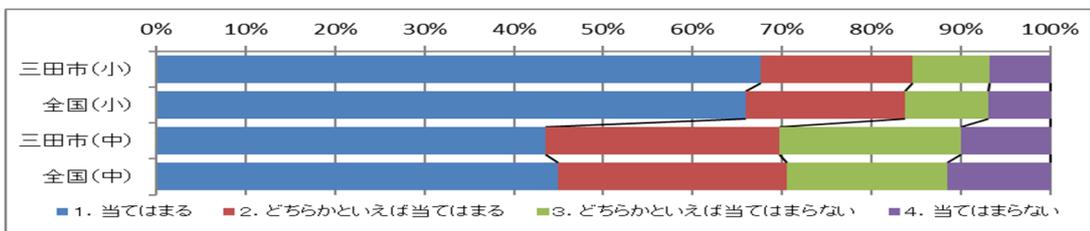
#### Q. 自分には、よいところがあると思いますか。



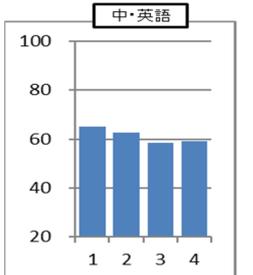
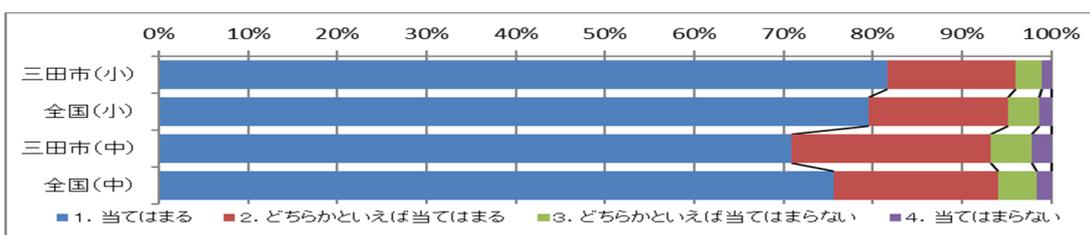
#### Q. 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



#### Q. 将来の夢や目標を持っていますか。



#### Q. ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。

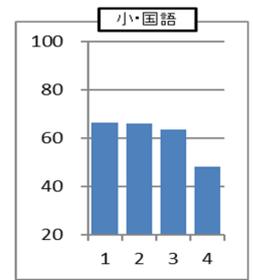
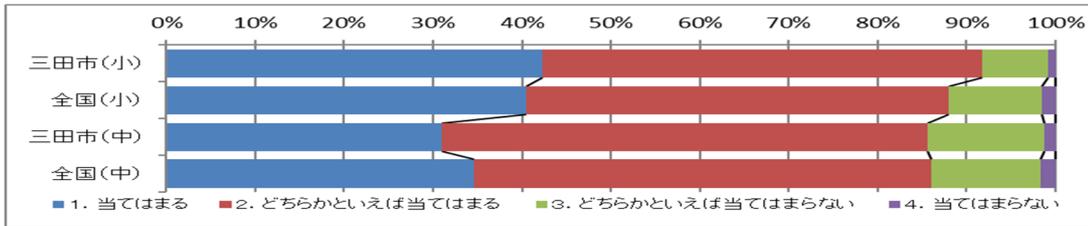


#### 認め励ます評価を大切にして、児童生徒の自尊感情を育む場を充実させよう

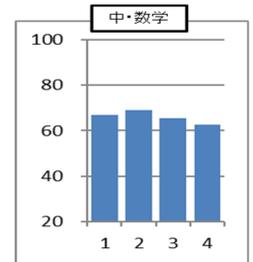
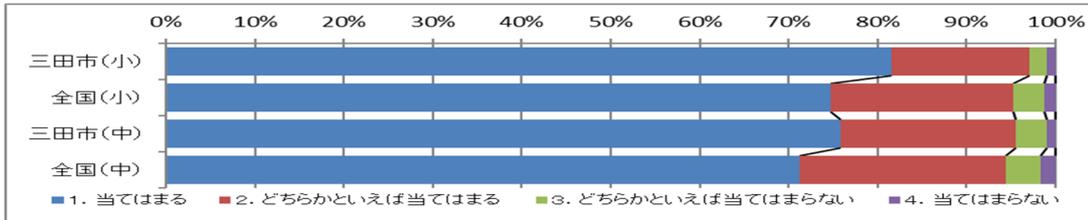
- 自分のよさを肯定的に認める児童生徒の割合は、全国平均と同程度で、小学校では昨年度から 4.1 ポイント増加しています。「先生は自分のよさを認めてくれている」と感じている児童生徒の割合は、小中学校ともに昨年度より高く、小学校では 5.7 ポイント、中学校 2.1 ポイント増加しました。
- 「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国平均と同様に 9 割を超え、肯定的に回答した児童生徒ほど平均正答率の高い割合を示しています。
- 周囲から認められることで子どもたちの自己肯定感や自己有用感は育まれます。周囲からの毎日の声かけにより自尊感情を向上させ、将来の夢や目標につなげるのが期待できます。

## 人とのつながりの視点から

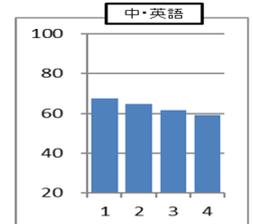
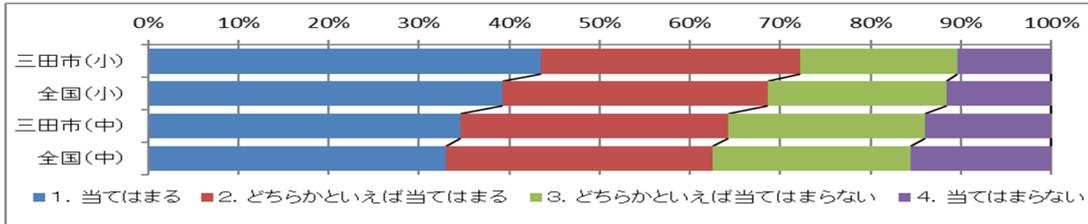
Q. 人が困っているときは、進んで助けていますか。



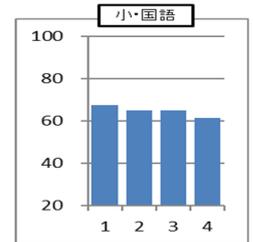
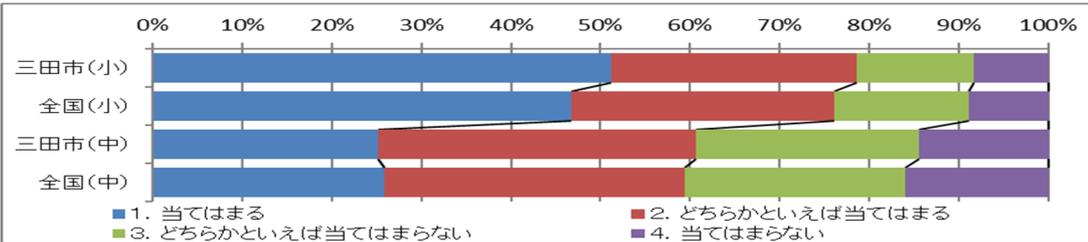
Q. 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



Q. 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか。



Q. 日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか。

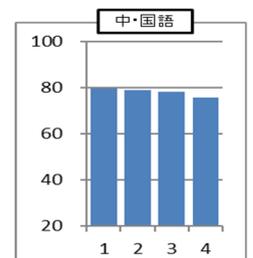
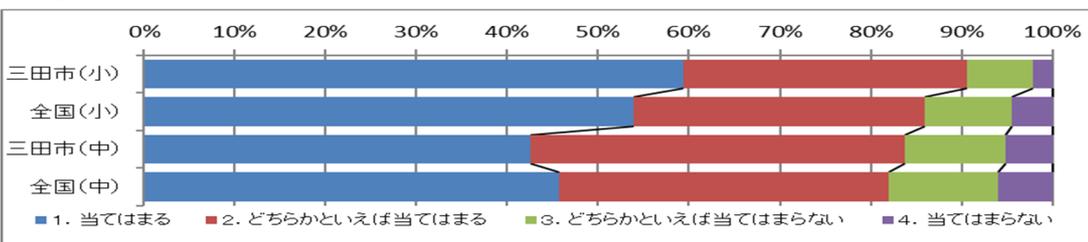


### 多様な人々とコミュニケーションを図る場を大切にしよう

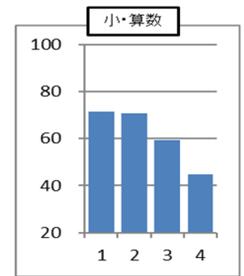
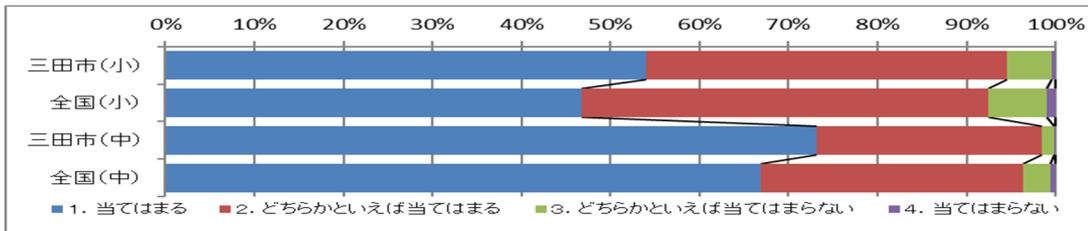
- 「人が困っているときは、進んで助ける」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小学校では9割を超え、全国平均より3.7ポイント高く、中学校では全国と大きな差はない状況です。また、「人の役に立つ人間になりたい」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国平均と大きな差はない状況ですが、小中学校ともに95%を超えています。
- 外国の人との関わりや外国への興味関心については、小中学校ともに全国平均と同程度で、肯定的に回答した児童生徒ほど平均正答率は高い割合を示しています。特に中学校英語では、外国の人や外国への興味関心が、英語の学力につながっている傾向があります。
- グローバル化が進む社会では、主体的に多様な人々とコミュニケーションを図る力が求められています。人や社会等のつながりを通して、自己をみつめ、他者への関心を深めていくことが大切です。

## 学校生活の視点から

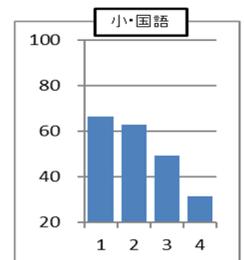
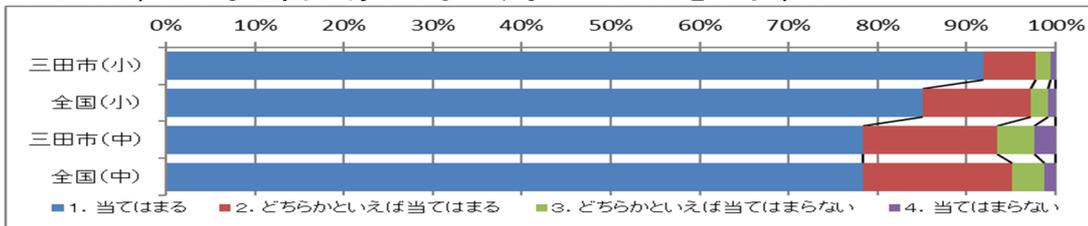
Q. 学校に行くのは楽しいと思いますか。



Q. 学校のきまり・規則を守っていますか。

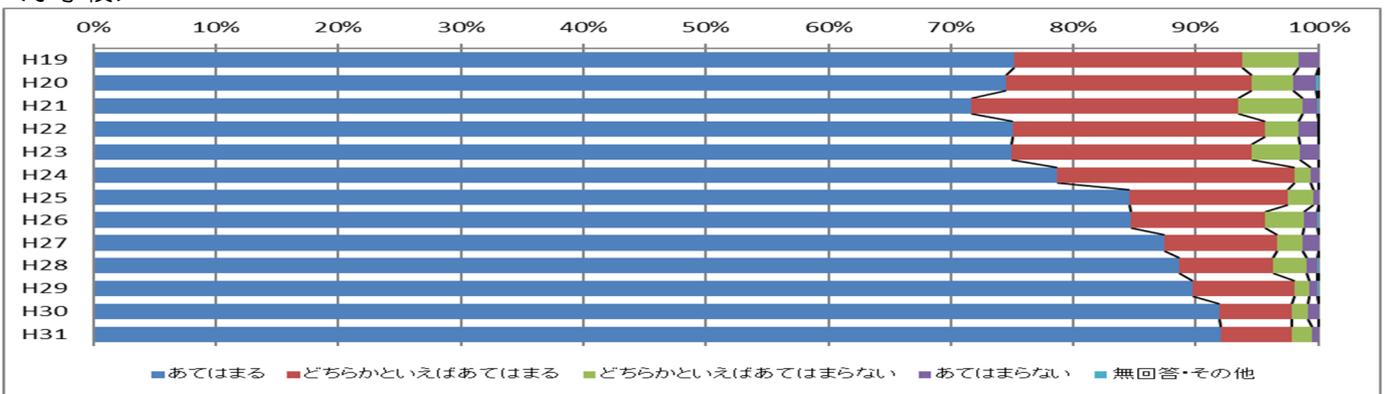


Q. いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。

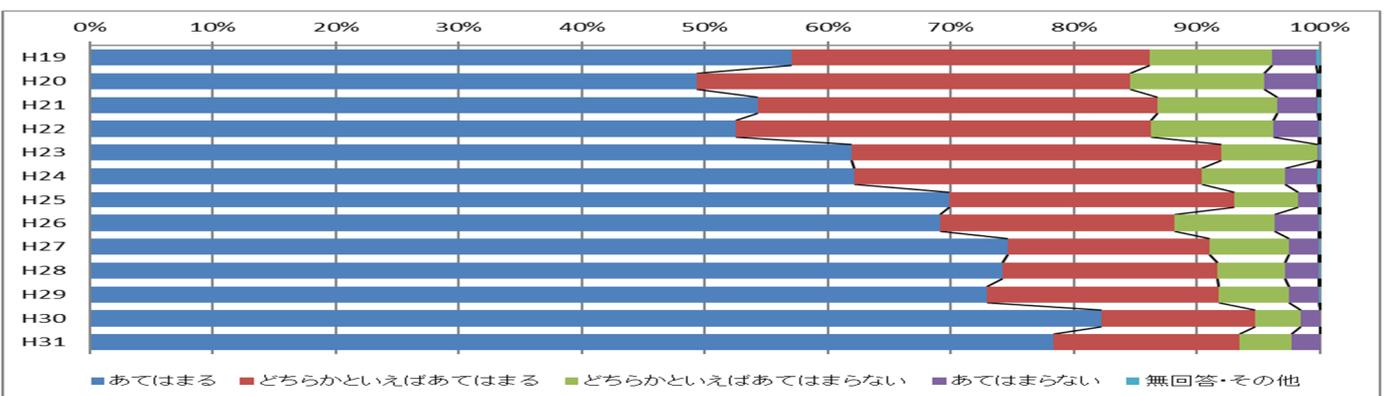


【平成 19 年度からの経年比較】

<小学校>



<中学校>



『見逃すな！いじめの芽 咲かせよう！笑顔の花』三田市立中学校生徒会



- 「学校に行くのは楽しい」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、小中学校ともに全国平均と同程度で、小学校では全国平均より 4.6 ポイント高く、9 割を超えました。肯定的に回答した児童生徒ほど平均正答率は高い割合を示しています。一方で、小学校は 9.4%、中学校では 16.3%の児童生徒が否定的に回答をしています。児童生徒にとって、学校が人とつながったり、学んだりすることが楽しい場となるように、一人ひとりに目を向けた環境づくりを今後も継続して進めていくことが大切です。
- 「いじめはどんな理由があってもいけない」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、昨年度とほぼ同程度です。児童生徒の「いじめをゆるさない」という意識を継続して高めていく取り組みが必要です。
- 学校と家庭、地域が連携して継続的に取り組んでいることが、学校が楽しく、安心して学べる環境となり、児童生徒の確かな学力向上につながっています。